

英語談話における three-part list の 第 3 要素の曖昧性とその教育的意義

Vagueness in the third factor of three-part lists in English discourse and its pedagogic implications

三 宅 弘 晃

1. 談話の中のパターンとしての three-part list

1.1 Three-part list とは

Three-part list は、英語談話において頻繁に用いられる、3つの部分 part を構成要素として構成されるリストである (Atkinson, 1984: 57)。聖書において、bicolon (2つの *bi-* 構成要素 *cola* からなるリスト)、tricolon (3つの *tri-* 構成要素からなるリスト) あるいは tetracolon (4つの *tetra-* 構成要素からなるリスト) が観察できる (Longman and Enns, 2008: 520) ように、このような構造は英語以外の西洋言語の談話中にも見られるものである。Three-part はこのような伝統的な修辞表現のうち、tricolon に類似あるいは相当する。

こういった3つの要素を並列する three-part list は、聖書のみならず、古典ラテンから現代英語、あるいはそれらに直接的あるいは間接的に影響を受けた他言語の言説に至るまで、「印象に残る表現」として好まれて使用されている。たとえば、以下の古典的とされる表現 ([1] キリスト教、[2] スエートニウスの伝えるカエサルのことば)、国是やそれに準ずる標語 ([3] フランス革命、[4] ドイツ第三帝国、[5] 日本の非核三原則) の中でも、3つの構成要素からなる構造が観察される。それぞれの例において、下線部①から③が three-part list を構成する要素である。

- [1] In nomine ① Patris ② et Filii ③ et Spiritūs Sancti.
 [2] ① Veni, ② vidi, ③ vici.
 [3] ① Liberité, ② égalité, ③ fraternité.
 [4] ① Ein Volk, ein Reich, ein Fuhrer.
 [5] 核兵器を① もたず, ② つくらず, ③ もちこませず

これらの three-part list は、各要素の間に「統一感や完結性 an air of unity or completeness」(Atkinson, ibid.) を与える。この統一感は、各要素にわたる脚韻 rhyme や頭韻 alliteration ([2] [3])、あるいは類似の文法的性質 (品詞 word class, 屈折形 inflection, etc.) ([1]~[5]) によってさらに強められ、受け手側に強い心理的影響を与えていることも注目に値するだろう。

このような談話的技術は、政治演説においても、聴衆に対して話し手のメッセージを伝える構造として効果的に用いられている。歴史的に有名な演説とされる下の例 [6] [7] においても、①~③の要素が意識的に並列されている。四角で囲まれた部分は、紙上においては一見冗長に感じられるが、話しことばにおいては各要素のつながりや統一性を強調するのに貢献しており、全体として three-part list が 1 つの構造として機能するのに役立っている。

- [6] (Gettysburg Address, 1863)
 Lincoln: Government ① of the people, ② by the people, ③ for the people.

- [7] (Mansion House, 1942)
 Churchill: ① This is not the end,
 ② It is not even the beginning of the end, but
 ③ it is perhaps the end of the beginning.

- [8] (Conservative Party conference, 1980)
 Thatcher: This week has demonstrated that we are a party united in
 ① purpose, ② strategy, and ③ resolve.

ここで、第 3 要素 (③) に与えられた特異性がとくに注目に値する。[7]

において先行する第1・2要素には否定構文であるが、第3要素は緩和表現 *mitigating device* である *perhaps* を伴いつつも唯一の肯定構文となっている。また、[8] においては、*purpose, strategy* という政治的な意味合いを持つ先行要素に対して、第3要素には心情的・感情的なニュアンスが多分に含まれた *resolve* が用いられている。このような例 [7] [8] において、第3要素は、議論の余地を生じない第1・2要素とは異なり、受け手にとって受け入れがたい内容を含んでいる。送り手は、この第3要素が内包しているかもしれない論理的な弱点を、three-part list の各要素の間に生じる統一感によって打ち消すことに成功しているのである。このように、three-part list は英語談話において、3つの要素を並べることで受け手に内容を記憶してもらうことを期待する構造としてだけでなく、論理の潜在的な弱さを補強することで受け手を説得するという戦略的な装置としても機能するのである。

次の節では、three-part list における第3要素の特異性に注目して、さらに考察する。

1.2 Three-part list の第3要素の特異性

前節で見たように、談話において、three-part list は他の要素との関係性の中で特異な性質を付与されることがある。次の three-part list を用いた古典的なキャッチフレーズ [9] も、特徴的な第3要素を持つ。この中で、第3要素は、第2要素に対して同義関係を持っている。

[9] ① Any time, ② Any place, ③ Any where (Martini)

この例は、要素が持つ意味内容そのものよりも、談話における定型として three-part list が機能していることを示唆している (Woods 2006: 29) という点で注目に値する。つまり、three-part list の談話上の本質は「要素を三つ並べること」にこそあるのであり、要素が2つしか存在しえない場合、あるいは適切な第3要素を選ぶことができない場合、話し手や書き手は“論理的には無意味な第3要素”をリストの最後に付け加えることによって、three-part list という聞き手や読み手により強い印象を与える定型を談話の中に作り上げることを目指しているのである。この事実、three-part list の談話上の効果をさらに補強

して説明する。

Atkinson (57-58) は、このようにして選ばれた“論理的には無意味な第3要素”を“vague and unimaginative improvisations”と評し、曖昧な要素の例として、*and so on, somethingorother thingummyjig, whatchamacallit, etcetra (etc.)*などを挙げている。*BYU-BNC: British National Corpus* (Davies 2004-)において、このような表現が three-part list に用いられる例は少数ながら見られるが、*thingummyjig, whatchamacallit* については見つからない。

[10] ...what you say ① Nissan ② and blooming Toyota's ③ and so on, right, they've got their factories open here

[11] ...report and it's all tied up with the whole issue of ① pay, ② workload ③ etc..
(BNC-BYU)

このような曖昧な第3要素は、前項で考えた戦略的な第3要素とは異なっているようである。次の項では、英語における three-part list を第3要素の性質によって分類する。

1.3 英語談話における Three-part list の分類とその教育的意義

以上の考察から、Atkinson (1984) によって導入された three-part list は、その第3要素に注目すると、以下の2種類（あるいは下位分類も含めると3種類）に大別することができると考えられる。本稿においては、便宜的に以下のような呼称を与えて区別する。

1. Complete three-part list

第3要素まで具体的で互いに独立した要素が羅列されているもの

例：① Veni, ② vidi, ③ vici.

2. Vague three-part list

2.1 Imaginative vague three-part list

第3要素まで具体的で互いに独立した内容を伴っていないが、第3要素に次項2.2に見られるような定型的表現を用いていないもの

例：① Any time, ② Any place, ③ Any where (Martini)

2.2 Unimaginative vague three-part list

第3要素まで具体的で互いに独立した内容を伴っておらず、
かつ第3要素に定型的表現を用いるもの

例：...and it's all tied up with the whole issue of ① pay, ② workload, ③ etc.

このような英語談話におけるパターン（Brown and Yule 1986: 22）の1つとして three-part list を捉え、その性質や効果を分析し、結果を談話レベルでの外国語教育に生かすことは、上の節1.1で考察したような受け手側への心理的印象を与える装置としての three-part list の性質を考えると有効である。とくに、ライティングや準備をすることが可能な場合のスピーチにおいて、このような three-part list を用いて、効果的なパフォーマンスが可能になるだろう。しかし、前もっての準備が不可能あるいは不可能にスピーキングにおいて、自然なスピードで three-part list を完成させることは難しい。このような場合、第3要素に決まった曖昧な要素を置き、第1・2要素の列挙のみに注意を払うことができる unimaginative vague three-part list を採用することで、話者の心理的負担を軽減することができる。以上のように、教育的見地からは、unimaginative vague three-part list の第3要素について注目し、どのような曖昧な要素がリストを完結するかが重要であると思われる。

次の項では、BYU-BNC を用いながら、unimaginative vague three-part list における曖昧な第3要素について観察・分析していくこととする。

2. BYU-BNC を用いた three-part list における曖昧な第3要素の分析

この章では、BYU-BNC（Davies 2004-）を用いて、unimaginative vague three-part list の第3要素として使われる表現を分析していく。この章で扱うのは、Atkinson（1984:57, 58）に挙げられた *and so on, something or other, thingummyjig, whatchamacallit, etcetra*、それに類する *thingummy, and so forth, et cetra, etc.*、さらに Chanell（1994: 131）が [vague] tag として分類した *and something like..., and things like that*、これに類する *and others, and the like* とし、これらが用いられる頻度と先行する環境を中心にみる。なお、Atkinson（1984）は名詞句、形

容詞句、副詞、動詞などさまざまな品詞が three-part list においては用いられると指摘しているが、今回の研究においては、three-part list としてはもっとも基本的とされる名詞句 NP 要素のみに限定した。この分析の目的は、母語話者が用いる unimaginative vague three-part list の第 3 要素として使われる自然な表現の本質を探ることにある。

2.1 BYU から見る Three-part list に用いられる曖昧表現の発現頻度

まず、BYU により、本研究の対象となる表現の頻度について、先行要素の数を限定せず言語使用域別に分析した（表2.1）。

	TOTAL	SPOKEN	WRITTEN					MISC
			FICTION	MAGAZINE	NEWSPAPER	NON-ACAD	ACADEMIC	
<i>and so on</i>	12	10		1				1
<i>and/or so forth</i>	4	1	3					
<i>somethingorother</i>	1		1					
<i>something or other</i>	13	12						1
<i>thingummy</i>	0							
<i>thingummyjig</i>	0							
<i>whatchamacallit</i>	0							
<i>etcetra / et cetra / etc.</i>	1,830	9	42	123	51	373	500	732
<i>and something like NP₍₁₎</i>	6	1	1			3		1
<i>and something like that</i>	2	2						
<i>and things like NP₍₂₎</i>	1			1				
<i>and things like that</i>	7	2		1		1	2	1
<i>and others</i>	381	10	11	17	25	114	113	91
<i>and the like</i>	62	2	2	3	1	12	32	10
		49	60	146	77	503	647	837

(1) *and something like that* を除く

(2) *and things like that* を除く

Table 2.1 BYU-BNC における three-part list の曖昧表現の生起数

これらの表現に対していくつの NP 要素が先行するか分析した（表2.2）。表における n が要素数であり、three-part list は $n=2$ となる。なお、表2.1の分析において、*thingummy*, *thingummyjig*, *whatchamacallit* にはこのようなパターンにおける生起例が見られなかったので、表2.2においては省略する。

	TOT	n	SUBTOTAL	SPOKEN	WRITTEN					MISC
					FICTION	MAGAZINE	NEWSPAPER	NON-ACAD	ACADEMIC	
and so on	12	1	6	5						1
		2	3	3						
		3+	3	2		1				
and/or so forth	4	1	1		1					
		2	2	1	1					
		3+	1		1					
somethingorother	1	1	1		1					
		2								
		3+								
something or other	13	1	12	11						1
		2	1	1						
		3+								
etcetra / et cetra / etc.	1,830	1	1,188	9	30	85	32	216	345	471
		2	339		6	23	11	83	78	138
		3	217		2	10	4	52	52	97
		4+	86		4	5	4	22	25	26
and something like NP	6	1	5		1			3		1
		2	1	1						
		3+								
and something like that	2	1	1	1						
		2	1	1						
		3+								
and things like NP	1	1								
		2	1			1				
		3+								
and things like that	7	1								
		2	6	2				1	2	1
		3+	1			1				
and others	381	1	306	10	9	17	21	92	80	77
		2	46		2		4	14	19	7
		3+	29					8	14	7
and the like	62	1	36	2		2		8	19	5
		2	17		2	1			11	3
		3+	9				1	4	2	2
				49	60	146	77	503	647	837

Table 2.2 BYU-BNC における three-part list の曖昧表現の生起数
(n: 先行する名詞要素の数)

2.2 分析

BYU-BNC から導かれる客観的事実として、three-part list は談話上におけるその印象的な効果とは異なり、予期されるほど高い頻度で用いられるものではない。たとえば、Atkinson の指摘する *something or other* (*somethingorother*), *thingummy*, *thingummyjig*, *whatchamacallit* といった表現は、three-part list の曖昧な第3要素としては用いられないことが指摘できる。また、*etc.* (あるいは異綴りの *etcetra*, *et cetra*) については、第3要素ではなく、むしろ (a) 第1要素への対立項 (A, etc.) または (b) 第4要素以降 (A, B, C, etc.) として頻繁に用いられている。このことは、*etc.* (異綴り含む) は、(a) 第1要素以外の可能性を示唆するために用いられ、または (b) 完結感を出す three-part list に対して曖昧な余韻を与える「拡張タグ」として用いられ、リストの完結をあえて妨げる働きを担っていることを示している。

- (a) [12] [...] for documents distributed to outside bodies, such as ① commissioned reports, ② etc.
- (b) [13] [...] relates to the objects of local government, e.g. ① education, ② health, ③ highways, ④ etc. These objects are then disaggregated [...]

このように、曖昧な第3要素として従来挙げられてきたいくつかの表現は、必ずしもそのような働きを持っているものではない。

一方、*and so on* や *or so forth* については、生起例自体は少ないものの、第3要素として用いられる傾向自体は見られるという点において、同義表現とされる *etc.* とは談話上の振る舞いが異なっている傾向が示されていると考えてよいだろう。

さらに、*things like that*, *and others*, *and the like* は、three-part list を完成するために用いられることも多いが、話しことばよりも書きことばにおいて、このような構造での使用例が多い。このことは、日常会話 *naturally occurring conversation* など、前もって準備されない談話 *unprepared discourse* において、three-part list を完結するために曖昧な要素を用いるのではなく、学術的談話 *academic writing* や新聞の言語 *newspaper writing* など、十分に準備される談話における three-part list に曖昧な第3要素を用いることを意味する。このことは、

and so on, (or) so forth, and things like (that), and others が話しことば、*and the like* が書きことばに用いられる一般的傾向が強いという事実とは無関係である。

3. 結論

3.1 BYU-BNC で観察できる three-part list の第 3 要素と曖昧表現

BYU-BNC から導かれる客観的事実として、曖昧な第 3 要素を持つ three-part list は英語談話において、当初予期されたほど高い頻度で用いられるものではなく、我々はこのようなパターンに対してむしろ恣意的に注目していることが結論づけられる。ただし、英語談話において、*and so on, (or) so forth, and things like that, and others, and the like* といった少数の定型的な曖昧表現は、three-part list を手軽に実現する手段として、第 3 要素のスロットを満たすための「埋め草」として有効に用いることができることも事実である。

3.2 Three-part list の英語教育的意義

英語談話レベルを視野に入れた英語教育において、複数のあるものを列挙するときに 3 つの各要素間に統一感や完結性 *an air of unity or completeness* をもたらす機能をもつパターンとして three-part list を扱うことができる。とくに、本稿の第 1 章で見たように、政治演説 (Atkinson 1984) や宣伝におけるキャッチコピー (Woods 2006) のように、書きことば (演説のように口頭で発表されることを目的とした談話も含む) では、このようなパターンが受け手に強い印象を与えることを指摘することは学習者にとって有益である。

この構造の中でも、第 3 要素は特に注目に値する。Three-part list は、第 3 要素の性質に注目することで、発信者の強調したいメッセージを目立たせるためのタイプと、「3 つである」ということ自体に意味を見いだしたことから生じる曖昧な第 3 要素をもつタイプに分けられる。このうち、後者のタイプにおいて、*and so on, (or) so forth, and things like that, and others, and the like* といった形式が用いられる傾向があり、このような表現を第 3 要素に用いることで、複数要素の列挙を単なる列挙以上のものにすることが可能になるということを指摘することができるだろう。

今回取り上げた曖昧表現以外の形式にも、研究対象となりうるものが多数存在する。曖昧でありながらもより複雑で自由性の高い構造を持つ名詞句、たとえば *other NPs*（例：and other types of communication）といった構造なども、その一種であろう。このような構造も視野に入れつつ、three-part list という概念をより実用的な形で英語談話教育に取り入れていくことを提案したい。

引用文献

- Atkinson, M. (1984) *Our Masters' Voices: Language and Body language of Politics*. London: Routledge.
- Brown, G. and G. Yule (1983) *Discourse Analysis*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Chanell, J. (1994) *Vague Language*. Oxford: Oxford University Press.
- Davies, Mark. (2004-) *BYU-BNC: The British National Corpus*. Available online at <http://corpus.byu.edu/bnc/>.
- Longman, T. & P. Enns (2008) *Dictionary of the Old Testament: wisdom, poetry & writings, Vol. 3*. Westmont, Illinois: InterVarsity Press.
- Woods, N. (2006) *Describing Discourse: A Practical Guide to Discourse Analysis*. London: Edward Arnold.